

## 【クレア経済アドバイザーの視点】

クレアでは自治体の海外経済活動に対し、より効果的な支援を行うため、経済交流課に経済アドバイザー（商社 OB）を設置しています。

海外経済活動に必要な基本情報から、輸出入や海外でイベント、商談を行う際の注意点などの個別具体的なアドバイスまで、専門的見地からの助言を行っています。どうぞご活用ください。

毎月、小笠原経済アドバイザーの視点による注目情報をお届けします。



## 貿易における「ハラール」の重要性(その1)

交流支援部経済交流課

### 1.はじめに

近年イスラム諸国の経済発展は著しく、特に東アジアでは 2011 年度 1 人当たりの GDP がインドネシアが US\$ 3,500 超、マレーシアは US\$9,700、タイ国は US\$ 4,992 と発表されている。これらの国々には日本から製造業を中心に投資が盛んに行われ、その経済発展には目をみはるものがある。又日本に対しては親日的で日本のブランド商品に強い信頼と憧れを持っている。さらに日本の文化にも関心が高く、近年では、日本のアニメやゲームも数多く輸入している。東アジアに止まらず、トルコや中近東諸国にも NHK のテレビドラマの「おしん」など日本のポップカルチャーがイランやエジプトで人気を博していると聞いている。すなわちイスラム諸国にも日本ブランドはあらゆる分野で国民レベルに浸透しているのである。

最近では 2020 年のオリンピックの招致活動で最大のライバル国トルコは、古くから日本との友好関係が強く、1890 年の和歌山沖で沈没したトルコの軍艦「エルトゥール号」の遭難救助に日本人が親身になって救助した美談を挙げるまでもなく、外務省がトルコで行った世論調査によれば、トルコにとってイスラム諸国に次いで最も重要なパートナーとして日本の名前が上げられた。今後 UAE やサウジアラビアとの新エネルギー分野での経済活動を通し益々日本とイスラム諸国の結びつきは強くなるものと安倍首相の言に待たず大いに期待される場所である。



トルコ・イスタンブールにあるモスク(1609~1616年建立)

このようなイスラム諸国との友好関係の構築の道筋の中に、ひとつ取り残された「ハラール」食品について少し考えてみたい。これから数回に渡りムスリムの食文化を中心にイスラム諸国へ“メイド・イン・ジャパン加工食品”の輸出産業育成と、ムスリム観光客の呼び込みを通じ地域の活性化に寄与できないか、問題点と可能性について皆様と考えていきたい。その為に日本には馴染みが少ないムスリムの歴史と、ムスリム世界の日常生活にイスラム教がどのように関わっているかを少し理解したい。

## 2. イスラム教とムスリム

本題に入る前に、少しイスラム教についてその概要を知る必要がある。勿論筆者もイスラム教についてはまったく知見なく、誤解と先入観を恐れず、出来るだけ偏見を排除し少し紹介してみたい。

西暦 7 世紀の初め、マホメット（ムハンマド）が、アラビア半島（現在のサウジアラビア）のメッカを発祥地とし、預言者として唯一神アッラーへの絶対的服従を説く、ユダヤ教、キリスト教の流れを汲む一神教の宗教である。マホメットが受けた神からの啓示を纏めた経典「コーラン」と彼の現行を示した記録「ハディース」に基づき信仰が営まれている。経典「コーラン」には「私（神）はイスラム（汝ら）のための宗教として認証した」と述べられている。



アラビア語の「イスラム」とは、「（神の意思や命令に）絶対帰依、服従すること」を意味し、イスラム教徒の「ムスリム」は元来「そのように帰依した者」を意味する。

長い歴史の中でいくつかの宗派に分かれて存在しているが、およそイスラム教二大宗派に分けられる。即ち「スンニ派」と「シーア派」である。

スンニ派は最大派閥で約 90% のイスラム教徒が信奉しており、預言者スンニに従い共同体を守る人々という意味で、アラブ諸国や、トルコ、アフリカ、東南アジアまで広い地域で多数派となっている。シーア派はマホメットの従兄弟アリーとその子孫のみをマホメットの正統後継者とみなし、「シーア・アリ」と呼ばれていた。主にイラン、イラクに多数住んでおり、全イスラム教徒の約 10% を占めている。このイスラム教を信じる人々をアラビア語で「ムスリム」と言う。今や、全世界のムスリムは 20 億人と言われ、西アジア、北アフリカ、中央アジア、南アジア、東南アジアに多くのムスリムが存在する。ムスリムの生活は戒律が細かく定められている。豚肉やアルコールを禁忌する事は良く知られているが、その為にも様々な決まりが存在する。同じムスリムの中でも、年齢、性別、生活する国や、地域、又信仰する宗派によって習慣は大きく異なり、個人差があるため一言ではいいきれない部分がある。

## 3. ムスリムの五つの義務

「神を信じれば救われる」と説くキリスト教とは異なり、イスラム教では内面の信仰だけではなく、それを証明するための具体的な実践が求められる。正しい実践としてムスリムに義務付けられていることは、信仰告白、礼拝、喜捨、断食、巡礼の五つの行為である。

この五つの義務は「信仰告白（シャハーダ）」、「礼拝（サラート）」、「喜捨（ザカート）」、「断食（サウム）」、「巡礼（ハッジ）」の五つである。

これらの五つの義務についての詳細は次回にて説明する。